

第 94 回 市川市廃棄物減量等推進審議会

<議題に対するご意見等>

回答書により寄せられたご質問とそれに対する回答及びご意見は、下記のとおりです。

【議題（報告）（1）】資料 1 令和 3 年度のごみ排出量等の実績について

質問	回答
<p>資源化率、焼却処理量、最終処分量等の目標達成は、厳しい状況のように思われますが、どのような取組みを進めていくのか教えていただきたいです。 (河井委員)</p>	<p>これまで実施をしてきた分別の徹底に向けた周知啓発や食品ロスの削減といった施策を進めるとともに、焼却灰のさらなる資源化促進や、製品プラスチックの分別等の新たな施策について検討いたします。</p>
<p>学校では、現在どのような環境教育を行っているのですか。 (井上委員)</p>	<p>学校等における環境教育として、下記があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内各小学校を対象に、ごみの分別（スケルトンパッカー車を使用）についての出前授業を行っています。 ・市の研修を受けた環境活動推進員（市民）や千葉商科大学の学生が、地球温暖化問題についての環境学習教材「未来ノート」を活用して、市内の小学校 4 年生を対象に出前授業を行い、その中でごみの削減について取り上げています。 ・市内公立幼稚園・保育園を対象に、環境紙芝居によるごみや地球温暖化問題についての読み聞かせを行っています。 ・そのほか、学童保育でエコバックの作成など行っています。

意見
<p>排出量の推移、家庭ごみ収集量の推移については、令和 6 年度の目標値達成は可能な数字ですが、他の項目については難しいのではないのでしょうか。目標値の設定を含め、分析が必要だと思います。(岩井委員)</p>
<p>埋め立てに回す焼却灰、破碎残さの削減策について、市民のアイデアや提案を求め、採用した場合はささやかでも褒賞するようにはどうでしょうか。(三橋会長)</p>
<p>焼却処理量、最終処分量（埋立量）を減らすには、何か得策がないと厳しいことが分かりました。(大石委員)</p>
<p>令和 2 年度と令和 3 年度のごみの総排出量の内訳を比較すると、どの項目もほとんど減っているのが分かりました。プラ容器については、コロナ禍もあって、小分けで売っているお店が増えているので、その影響もあるのかと思いました。(三瀬委員)</p>

意見
人口増加があるなか、ごみ排出量の増加は見られず目標の1人1日あたり排出量は順調に推移しているように思います。(河井委員)
あまり変わらないという結果は、まだ私たち市民のごみに対する意識が足りないと思いました。(安東委員)
<ul style="list-style-type: none"> ・1日のごみの量を減らす努力を意識して行いましょう。(例えば食品ロスの削減等) ・家族全員で行動するため、話し合ひましょう。 ・学校で環境教育を行いましょう。(井上委員)
<ul style="list-style-type: none"> ・排出量の実績については、1人1日あたりの排出量(排出量の推移、家庭ごみ収集量の推移)のデータによると、大きく減少していると感じます。 ・コロナ禍において収集回数が2回から3回となったにもかかわらず、ごみの総排出量が減少しているという事は驚きです。 ・地元の集積所の紙類に関して、しっかり束ねたものや、紙ごみ用の袋に入れて出されているのを見ると、資源になるという意識が住民に定着してきたかと感じます。(松本委員)
<p>平成29年度に燃やすごみの収集回数が2回になり、少しずつ収集量が減ってきましたが、コロナによる在宅が増えたため、令和2年くらいから収集量がまた増えてきています。よって臨時収集ということで週3回の収集回数となっていますが、令和4年の現在ではまた収集量が減ってきています。</p> <p>環境問題の事を考えれば、臨時収集を撤廃して週2回に戻せば更なる排出量の減少が望まれるのではと思います。(藤城委員)</p>

【議題(報告)(2)】資料2-1、2-2 ペットボトル単独収集実証実験について

質問	回答
若者の参加、協力を促進させる知恵はないのでしょうか。(三橋委員)	<p>例えば高校生や大学生の世代であれば、スマートフォンのアプリを活用するなど、ライフステージに合ったツールを用いて、協力を呼びかけていくことが望ましいと考えています。</p> <p>なお、若者が多く居住する賃貸の集合住宅に対し、不動産業界へ協力を求め、ごみの分別に関するきめ細やかな周知・情報提供を行っています。</p>
1. 実証実験の目的は、ペットボトルの本体のみを単独収集する方法に変更したい、ということとありますが、変更する理由はどのようなことでしょうか。(宇仁菅委員)	<p>ペットボトルは単一の素材でできており、プラスチック容器包装と比較して資源価値が高いものです。</p> <p>ペットボトルを単独で集めることで、より混入物の少ない資源物となることが期待されるため、本実証実験を実施し、市民の負担感や分別状況を検証しました。</p>

質問	回答
2. 資料2-1の1.によると、ペットボトルは中間処理施設で選別した上で、リサイクルの原料として出荷しているとのことですが、どのような方法で選別されているのか、教えてください。(宇仁菅委員)	市内のごみ集積所から中間処理施設に搬入したプラスチック製容器包装類(ペットボトル含む)は、手作業にてペットボトルとその他のプラスチック容器包装とに選別しています。
3. 資料2-1の7.で、プラスチック資源循環法の施行を踏まえると、製品プラスチックの収集方法も今後の検討課題と考えますが、現時点で今後の方針についてお考えがあれば教えてください。(宇仁菅委員)	製品プラスチックの収集方法については、受け入れ先(中間処理施設)の選定と併せて、今後検討をしていきたいと考えています。
4. 資料2-1の7.で、排出者の負担のみを考慮して検討するように読めますが、他にも温室効果ガスの排出量の削減、市全体の収集・処理のコスト削減も考慮すべき重要な事項と考えますが、いかがでしょうか。(宇仁菅委員)	ご指摘のとおり、現在焼却処理をしている製品プラスチックを分別収集してリサイクルすることは、資源化の促進だけでなく、温室効果ガスの削減にも寄与します。今後のプラスチック資源の収集方法については、地球温暖化の防止やコスト面等を総合的に踏まえて検討してまいります。

意見
実証実験に参加いただいた方々に感謝いたします。主な自由意見の内容は貴重なご意見と存じます。(岩井委員)
市教育委員会にも協力してもらい、小中学生を対象に市役所の担当者が学校に出かけ、授業の一環として、ペットボトルのリサイクルについて意見交換をしてみたいかがでしょうか。(三橋会長)
<ul style="list-style-type: none"> ・国内での啓発運動にもう少し力を入れても良いのではないかと思います。プラスチックとペットボトルの違いまで理解できている市民は多くはないと思います。 ・ペットボトルを回収するための収集袋が不要となるシステム作りは必要かと思われました。(大石委員)
ペットボトルのみを分別するメリットを広く説明し、その取り組みを行うことで1人1人のごみを減らす意識が高まるので、良い活動だと思いました。(三瀬委員)
<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルは資源価値があり、単独で収集することで市民の啓発にもつながっていくものと思います。 ・今後、この実証実験の活用を期待しています。(河井委員)
<ul style="list-style-type: none"> ・結果は良い方に向かうのではと思います。私たち市民へもっと分かりやすく知らせることが必要ではないでしょうか。 ・入れる袋は別にした方が綺麗に出せると思います。(安東委員)

意見
<p>キャップ外しやラベル剥がしは、目的や意義が理解できれば負担感は軽減されるので、実証実験を他の地域にも広げてはどうかでしょうか。(井上委員)</p>
<p>実証実験は、分別意識の向上に大変素晴らしい実験だと思いました。個人的ではありますが、「ラベルを外す」「キャップを取る」「つぶして容器包装類の袋に入れて出す」は毎回実行しております。下記のような提案はいかがでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none">・容器包装類を出す日に、同じ袋に赤いガムテープを貼るなどして、ペットボトルのみを出すようにしたら手間が省けるのではないのでしょうか。それが駄目であれば、実証実験を拡大して実施する方法（ペットボトルを別の曜日に排出）はいかがでしょう。(松本委員)
<p>1週間の1世帯あたりの排出量は、約400gとのことでしたが、夏場ではもっと多い排出が予想されます。週1回のプラスチック製容器包装類の回収では各家庭が大変だと思いますので、ペットボトル単独収集は市川市民にとって助かると思います。(藤城委員)</p>